

世界テキスタイルデザインとアートの動向 —2009年の展望から明日を考える—

2009年は世界的な経済事情の厳しい年でしたが、中でも人々は何とか明日を拓く知恵を懸命に模索し、それぞれの分野で日々を動かしてきたと思います。その締め括りがデンマークのコペンハーゲンで開催されたCO₂削減を求め、地球の温暖化をくい止めようとするエコロジー〈COP15〉の会議だったように思います。190の国と地域が参加し、98の国家首脳が出席しての大会議となりました。私共テキスタイル関係の分野でもいろいろの会議やイベントが開催されました。恒例のフランクフルトのメッセをはじめ、パリのメゾン・エ・オブジェ等々多少の縮小や変化はあったにせよ前向きに続けられてきました。その他にも各地各様様々なイベントが開催されましたが、それ等を展望しながら時代を把握し、その中で日本はどう進むべきか、私たちは如何に為すべきか2010年を迎え改めて考えてみたいと思います。“21世紀はアジアの時代”と言われて来ましたが事実欧米の目がアジアの国々に向けられているのは事実でしょう。



AFFベトナム会議実行委員長
とスピーカー



ベトナム・コレクションランプリ
受賞作品



ベトナム・ファッションフェア フィナーレ

● アジアファッション連合 (AFF) の動き —ベトナム大会より—

Asia Fashion Federationと表示される機構は 2003年創立され、最初の立ち上げは中国、韓国、日本の連帯組織として発足し、相互理解と共栄共存のアジア共同体として産業と生活文化の高揚を目指して活動を続けてきましたが、漸次、シンガポール、タイの参画に加えてベトナムが加わり、6ヶ国による会が2009年11月ベトナムのハノイで開催されました。

中国の成長もさることながら若い国ベトナムの国民性と向上力は産業界に大きな力を発揮しはじめています。会議にジョイントされたファッションコンペは、世界各地から審査員を迎えて開催されましたが、発展途上とはいえ人口の60%以上が若者 (30才未満、平均年齢27才) という国のフレッシュな意気込みを感じました。日本からはコシノジュンコ氏が審査員として参加しました。会議にはAFF日本委員長平井克彦氏 (東レ〈株〉相談役)、副委員長三宅正彦氏 (〈株〉サンエーインターナショナル会長)、同副委員長中島芳昭氏 (日本ファッション協会専務理事)、委員聖生清重氏 (日本繊維新聞編集局編集主幹)、同委員田口佳弘氏 (織研新聞編集局長) 等、私も含め現地から東レインターナショナル (山口孝明氏) 及びN I 帝人商事 (守屋治成氏、上辻和典氏) 等を加え計23名が代表参加しました。6ヶ国から1人ずつの代表デザイナーによるファッションショーには保井秀信氏が推薦参加され各国代表によるシンポジウムのプレゼンター・スピーカーには“纏”のブランドで知られる、ファッションデザイナー堀畑裕之氏と関口真希子氏がものづくりの所見と映像によるコレクション、日本古来の素材と技術を生かし慶長時代に思いを重ねた作品を紹介し高い評価を受け、多くの質問が彼らに寄せられました。日本の伝統と現代と若い感性で新しく繋いだ思考とかたちが、それぞれの国の伝統との関わりを再考させる示唆になったようでした。皆、これからの方向を探し求めているようでした。

その他、シルク村の訪問やファッションフェア、市場の見聞後南に下ってホーチミン (昔のサイゴン) 郊外約30kmのドンナイ省にあるAMATA工業団地を視察しました。広大な敷地に点在する近代工場の展望はまさにグローバルな現代産業のあり方が示されたような風景でした。海外からの入居社111社は英、独、仏、スイス、オランダ、オーストリア、サウジアラビア等多岐に亘りますが中でも日系企業は、花王、資生堂をはじめ現在49社が可動しています。その中の一つY K Kの工場を見学する事ができましたが、この基地から世界に向けて先端商品を送りだして